

令和3年度春の特別ラン展の開催について

島田有紀子・堀川大輔・藤井智展
田中宏昌・高井敦雄・富澤まり

2022年2月19日（土）から2月27日（日）まで開催された「春の特別ラン展」の概要について報告する。

テーマ、サブタイトル、展示概要

2021年10～11月にかけて、展示テーマについて職員にアイデアを募集したところ、コロナ禍で自由に旅行ができない時代に当園で少しでも旅気分を味わってもらいたいという願いから、「Go to キャッスルズ ～植物公園で旅気分～」に決まり、有限会社橋本園芸場（現在は橋本園芸株式会社、以下同じ）が制作し所有している城の模型を借用して、ランと装飾する企画を立てた。城は熊本城、姫路城、大阪城、広島城、江戸城の模型5つと、大温室内既設の熱帯古城を含む6つとした。

日本の5つの城と熱帯古城

大温室への導入として、自動扉横の屋根下に江戸城の1/30模型を展示した。戸外であるため洋ランを使った装飾ではなく、啓翁桜の切り枝で装飾した（写真1）。

入室してロビーを過ぎると、両側約4mに渡って、啓翁桜の切り枝を配列した。2月27日の会期最後まで花がもつように、初日の時点で咲き始めの枝とつぼみの枝を約半々組み合わせ、また高さ約2mの木全体に花が見られるよう、長さ約2mと約1mの切り枝を組み合わせ、水を入れたバケツに生けた。バケツを隠すために、（有）橋本園芸場から門松の枠を借用し、装飾に利用した。

啓翁桜の並木を通り過ぎたあと、正面池内奥に熊本城の1/20模型を配置した（写真2）。城には桜がよく似合うと考え、城の両側にナンキンハゼの枯れ木を立て、それにデンドロビウム・ファンシーエンジェル‘リセ’を取り付けて桜に見立て、城に覆い被さるようにした。2本合わせて約500鉢のデンドロビウムを使用した。この桜の下に、高さ約150cmに印刷した、舞い落ち

る桜の花びらを見上げるくまモンのイラスト（熊本県公認）のパネルを立てた。また、桜の足元にはファレノプシス・アマビリスと、散った桜の花びらをイメージしてデンドロビウム・ファンシーエンジェル‘リセ’を混ぜて装飾した。

なお、大温室内正面に熊本城を選んだ理由は、2022年3月に熊本県で全国都市緑化フェアが開催されるためであり、応援の意味を込めたものであった。その他、花を持つくまモン、カメラを持って写真を撮る姿のくまモン、スーツケースを持つくまモンのイラストもパネルにして設置し、旅行気分を演出した。

バオバブ付近には1/20模型の広島城を、大温室西口付近には1/20模型の姫路城を、1階熱帯スイレン温室との連絡口付近には1/20模型の大阪城を配置し、それぞれ周囲をデンドロビウムとシンビジウムで装飾した。

熱帯古城のコーナーは、東南アジアの古王朝の廃墟となった城が樹木に飲み込まれて破壊されていくイメージの装飾を下記の手順で行った。

既設の熱帯古城風の壁以外に、一部城壁も製作し、よりリアルな熱帯古城内部となるよう試みた（写真3）。

次に大サイズの樹木を主要な位置に配置し、それ以外の場所を中小サイズの樹木を配置して、装飾の骨格となる部分を作成した。配置の際は、城壁の開口部からつるを内外に出したり、樹木を絡ませたり、這わせたりして古城が飲み込まれていく様子を表現した。なお、樹木は、主に園内の駐車場・下料金所西側境界部付近のコンクリート壁下のフジや日本庭園東側尾根付近のフジを持ち込んで利用した。

骨格を作成した後、切花や小さい鉢花でフジの太いつるに結び付け、着生ランが咲いている状態を表現した。また、鉢花を配置することで、崩壊した天井部から光が差し込み、古城内部に花畑が広がっている様子を表現した。装飾した鉢を隠したり、枝から植物を垂れ下がらせて、ジャングル感を演出したりするのにサルオガセモドキやバークチップを至る所で活用した。

撮影コーナーは、既設の熱帯古城の城壁を背景にして、日本庭園から持ち込んだつるが多く枝分かれしているフジを配置した。つるは四方に広げ、そのつるにピック付きの切花を結び付けた。つるの根元付近に椅子を配置し、その左

右、後方にシンビジウムやデンドロビウム等のボリュームのあるランの鉢を配置し、できるだけ華やかになるようにした。椅子へと向かう進入路にはパークチップを敷き、古城の廃墟が自然に還る様子を再現した。また、カメラ位置に迫るようにもつるを配し、奥行きのある飾り付けとなるよう切花や小鉢を取り付けた。

愛好団体などによる展示

広島県・山口県のランの愛好団体は、広島洋蘭倶楽部、日本・蘭協会西中国支部、岩国蘭友会、徳山蘭友会の4団体（当初予定していた柳井オーキッドクラブは出品を辞退）で、計39名による286点の出品があった。それらを対象に洋ラン品評会を行い、グランプリ1点、準グランプリ2点、優秀賞と奨励賞各2点を含む計11点を選出し表彰した。上位3作品は1階の熱帯スイレン温室との連絡口付近に棚を設けて展示した。その他の受賞作品はそれぞれの団体の棚で、受賞を示す札を添えて展示した。そのほか、広島県花卉園芸農業協同組合洋ラン部会（以下、洋ラン部会）による71点の展示装飾もあった。

空中デッキにおける擬態特集

空中デッキ（スロープ）では「虫になるラン・ランになる虫」と題し、虫や他の花に擬態するランとランに擬態するハナカマキリを展示した。これについては別稿で詳述する。

第39回広島県ラン展審査会

広島県ラン展審査会を春の特別ラン展の共催事業として大温室ロビーで開催した（写真4）。これは新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、これまで福屋広島駅前店で開催されていた広島県ラン展が中止になったため、当園に場所を変更して開催したものであった。例年に比べ出品は少なく、洋ラン部会からはコショウランを中心に21点、広島洋蘭倶楽部からは原種を中心に171点が出品された。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のための広島県まん延防止等重点措置（以下、まん延防止等重点措置）の延長に伴い、最終日に予定していたオークションを中止し、代わりに入場制限をしたうえで洋ラン部会の出品鉢の販売を行った。

展示温室

愛好団体によるランの販売会を行った。来園者をメイン会場（大温室）から離れた展示温室まで誘導する目的で、当初はクイズラリーの参加者へ景品を渡すコーナーを設けることとしていたが、まん延防止等重点措置の延長に伴い、クイズラリーや実演会は開催できず、販売のみとなった。

中止した関連イベント

まん延防止等重点措置の延長に伴い、前述のクイズラリー、洋ラン実演会のほか、ランの花すくい、ハナカマキリ解説会、カレイドボタニカルフレーム作り講習会、ランのオークションは中止となった。



写真1 啓翁桜を使用した桜並木



写真2 熊本城とデンドロビウムの桜（大温室正面）



写真3 熱帯古城の撮影コーナー



写真4 広島県ラン展審査会の展示